

地歴公民 (日史・世史・地理・政経・倫理) 北海道大学 総合入試【文系】、学部入試【文】

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

記述式 46問 論述式 14問 計 60問

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

記述式の問題数は昨年よりやや増加した。論述式の問題数は昨年と同じで、総字数も昨年とほぼ同じであった。全体を通じて標準的な問題が多いが、**4**に一部答えにくい問題や詳細な知識を問う問題がみられた。

出題の特徴や昨年との変更点

例年、大問4つで、**1**は古代、**2**は中世、**3**は近世、**4**は近現代という構成をとっており、それぞれ様々な分野から出題される。また、蝦夷地・北海道や、江戸時代の対露関係がテーマとして取り上げられることも多い。本年は、**3**に明治時代の問題がみられ、**4**では戦後史の出題が復活し、1960～70年代が扱われた。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	記述式 論述式	古代の政治, 文化 ・律令制下の関について, 密教の伝来と発展	問1は文章中の愛発関に関する一文から, それぞれの国に該当する七道を答えれば良い。問4は文章から関を通過する者の所在確認を厳重にしていることを読み取り, 浮浪・逃亡を防ごうとしていると判断する。問7はやや詳細な知識であった。	標準
2	記述式 論述式	中世の政治, 外交 ・『蒙古襲来絵詞』が題材	問1(6)は「具体的に」という指示によりどこまで説明すべきか迷う。問2(1)は「彼(竹崎季長)を顕彰したい人間」の視点を織り混んだ説明にするのがやや難しい。	標準
3	記述式 論述式	近世・近代(明治時代)の政治, 外交, 文化 ・琉球藩王の王子の回想, 大隈重信の長崎にいた頃の回想《史料》	問3(1)は「幕藩体制の日本」とあるが, 琉球王国と幕府, 薩摩藩との関係を説明できれば良い。問10はやや詳細な知識である。	やや易
4	記述式 論述式	近現代の政治, 外交, 社会, 文化 ・谷崎潤一郎, 牧野伸顕, 不破哲三, 佐々淳行の著作・回顧録《史料》	問1は「のんきな戦争」がどの戦争を指すのか, 史料では不明確なので答えにくい。問4は字数が少ないうえ, 1911年に起きた辛亥革命をどう説明につなげるのが難しい。問8(1)は難しい。問6(1), 問11(2)はやや詳細な知識である。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

記述式の問題については、本番で取りこぼしがないよう、教科書を中心に歴史用語を確実に定着させる。論述式の問題については、教科書の説明に則した歴史理解を心がけ、歴史事象の背景や因果などを意識しながら学習し、比較的短い字数の問題を素材にして練習を繰り返す（可能であれば添削指導を受ける）。また、過去の出題と類似したテーマから出題される傾向があるので、過去問もしっかり解き、理解を深めておくようにする。